ばってん

事務長会報第44号
平成30年10月1日

長崎県公立学校事務長会
長崎県立長崎北陽台高等学校内
〒851-2127
西彼杵郡長与町高田郷3672
電話（095）883-6843

雑感…

副会長（佐世保西高等学校） **中町　雅典**

新任事務長として佐世保西高等学校に赴任してから、１年半が過ぎようとしています。

昨年（平成２９年）の４月、本当に久しぶりというか、ほぼ初めてといっても良いくらいに乏しい経験値しか持たない中での学校勤務…。

最初の３か月ほどは、ただただ流れに身を任せ、事務室のスタッフの頑張りに支えられながら、着任式、入学式、県費・私費の決算、育友会監査から役員会そして総会など、年度当初の行事をやり過ごしたといった感じでした。

爽やかな薫風の季節が過ぎ、蒸し暑さが身体に堪えだす頃になってようやく少しずつですが、自分のペースで仕事を楽しむ余裕が持てるようになってきたと記憶しています。また、その頃から徐々に諸行事における生徒たちのひたむきな頑張りや、それを指導する先生方の厳しくも温かな姿勢を感じることができ、改めて「学校って素敵な職場だなぁ」ということが実感できました。

そして、このような本県の高校生の気質とも言える真面目さやひたむきさ、純朴さといったものを、私はこれまで経験した教育委員会での業務の中で強く感じたことがあることを思い出しました。

それは、平成１３年度から１５年度まで勤務した「全国高総体推進室」での業務の中で感じたものでした。平成１５年度全国高等学校総合体育大会「２００３年長崎ゆめ総体」の総合開会式。当時の本県の高校生たちは、県外からの参加選手、応援者など来県者を「おもてなしの心」で迎えようと気持ちを一つにして見事な公開演技や吹奏楽・合唱、式典進行、入場行進等を披露し、心に残るとても感動的な総合開会式を創りあげてくれたのです。これは、一朝一夕にして成せるものではなく、まさに本県の教育が大事に守り続けてきた伝統によって培われたものだということを強く感じさせられました。

既にそれから１５年もの月日が流れています。しかし、現在現役の高校生からも、当時と変わらぬ真面目さやひたむきさ、純朴さというものを感じ取ることができます。このことは、本県の教育がぶれることなく、大事に守るべき所は連綿と引継ぎ、残してきたことによる成果なのだと思います。

本県の高校総体総合開会式は、現在でも屋外の陸上競技場に４千人を超える生徒や関係者等が集まり実施されています。体育館等の屋内施設を利用し、規模を小さくして実施する県が増える中にあって、本県の形態での実施は珍しくなってきているともお聞きしており、個人的にはこれからも守っていってもらいたい伝統のひとつだと感じています。

近年、教職員の超過勤務が表面化・社会問題化し、「働き方改革」を喫緊の課題と捉え、その対策を推進していくことが必要な世の中になってきています。本県においても、月１００時間を超える超過勤務者の数を２０２０年度までにゼロにするという目標が示され、新たに出退勤記録システムを開発し、正確な実態把握を行いながら、目標の実現に向けた取組を本格化していくこととされています。

このような現状を踏まえ、これまで受け継がれてきた本県教育の良い伝統を後世へと繋いでいくためには、各学校において教育活動の内容や実施方法、役割分担などを詳細に見直していくことが不可欠となります。事務室においても「チーム学校」の一員として、事務長が、また、事務職員がどのように学校経営に参画し「事務をつかさどる」ことができるのか、具体的に検討し実践に移していくことが求められているのだと思います。

変化の激しい時代、「教育の不易と流行」をしっかりと認識し、変えてはいけない大事な部分を守るために、変えるべきところは思い切って変える。見極めと大胆な改革が必要とされているのではないでしょうか。

鳴滝高校開校準備時の思い出

鳴滝高等学校　平田　正紀

鳴滝高校は平成１２年４月に開校し、来年度には創立２０周年を迎えようとしています。

鳴滝高校の校舎やグラウンドは、平成１１年３月まで長崎県立女子短期大学がその学舎として使用していました。当時の校舎には大学らしいこぢんまりとした研究室や大小さまざまな講義室がたくさんあって、そのままでは高校の校舎としては使いづらい造りをしていました。

平成１１年４月から、１年後の鳴滝高校開校に向けた準備が本格的に始まることになり、校舎の改築やグラウンドの改修工事が進められていきました。私はこの準備作業に携わったひとりでした。まずはじめに取りかかったのは、誰もいなくなった施設を見守ってくださる当直を探すことでした。２名の方にご協力いただくことになり、学校施設に関わる日常の問題や出来事を電話や日誌で報告していただいていました。その時の畳部屋の当直室が今でもちゃんと残っていました。

校舎の改築では、３課程分の職員室や物理地学室、生物化学室、進路指導室など高校に必要な部屋に造り替えられました。また、外付けでエレベータも新設されました。

グラウンド改修では、高さ１５ｍの防球ネットを新設しましたが、そのコンクリートポールは全長１８ｍもあり、鳴滝高校入口の狭い道路がネックとなり、昼間の搬入は断念し深夜１２時からの搬入に立ち会うことになりました。

また、新しくどんな学校ができるのかを説明するため、自治会の夜の集会に出向いて行って、ドキドキしたことも思い出しました。あれからもうすぐ２０年。このように縁のある鳴滝高校に実際に勤務することができて、とても嬉しく、そしてやりがいを感じています。

鳴滝高校　全景

生涯ランナー

大村高等学校　鹿島　一雄

人生はよくマラソンに例えられます。私は趣味で３０年くらい走り続けていますが、もともとダイエットのつもりでと軽い気持ちで始めたランニングがこんなに長続きするとはまったく思っていませんでした。

マラソンは、人生とまでは言わないまでも仕事と通じる部分がいくつかあるので思いつくままあげてみます。

○目標を立てて計画的に取り組んだ方がうまくいく

フルマラソンを走り始めたのは５年前からですが、よく「３０キロの壁」とか「３５キロ過ぎからが本番」とか言われるように苦しいところや乗り越えなければならないところが必ずあります。これを乗り越えるために最近は計画を立てて練習しています。今でも年齢と反比例して記録は伸びています。年齢はあまり関係ないと思っています。

○楽しくなければつまらないし続かない

長く走っていると飽きがきます。そこで練習内容を変えたり、走るコースを変えたりしてできるだけ単調にならないように工夫しています。最近は音楽を聴きながら走っています。好きな曲だと調子も上がります。

○正しいフォームが大事

マラソンの練習を続ける中で、ここ数年でフォームの大切さを実感しました。これまであまりフォームについて意識せずに走ってきたため、いつもふくらはぎ、太もも、ひざ、腰などの怪我に悩まされてきました。正しいフォームを意識し始めると、その後は特に痛みも無く快適に走れるようになりました。基本の大切さを改めて実感しました。

仕事のフォームと言えば基本的な仕事のやり方や進め方になると思いますが、これが確立されてないと無駄が多く、時間ばかりかかってしまうことになると思います。自己流では無く、先輩方の仕事ぶりを参考にしたり、同僚に聞いたり、研修会に参加して自己研鑽に努めたりするなどして自分の形を確立するといいと思います。

参考になった本：『ランニングする前に読む本　最短で結果を出す科学的トレーニング』田中宏暁著

座右の銘：『ボーっと生きてんじゃねえよ!』チコちゃん

まだ退職まで数ヶ月ありますが、先輩や仲間に助けてもらって、これまで３７年間勤めてこられたと思っています。長い間お世話になりました。皆様も健康第一でお仕事に励んでください。

「事務長さん、教育環境整備課からお電話です」

佐世保東翔高等学校　松永　朋子

４月に新任事務長として佐世保東翔高校に赴任し、あっという間にもう５ヶ月ですが、これまでになかったような速さで時間が過ぎていきます。

私が赴任した佐世保東翔高校は、昭和２４年に設置された川棚高校江上分校と北松高校中里分校が、昭和３０年に統合され早岐高校となり、その後昭和３７年に開校した佐世保東商業高校を経て、平成１０年４月の総合学科開設に伴い校名変更された学校です。現在の生徒数は３５７名、そのうちの２９６名が女子という賑やかな学校です。生徒は、早いうちから将来の目標を持って学習に励む子が多く、みんな楽しそうに学校生活を送っているようです。

今までも、生徒が安心して充実した高校生活を送れるように…ということを第一に仕事をさせていただいていましたが、事務長という役職をいただいたことで、ますますその思いが強くなりました。これまでとは違い、自分で判断しなければならないことも増え、知らなかったいろいろなことに気づかされることも多くあり、日々どきどきしながら働いています。

ほんとにこの短い期間にいろんなことがあること！例えば、教育環境整備課からの突然の電話連絡だけでも、こんな風です…。

☆　××工務店からの電話依頼で、東翔の○町公舎の敷地に工事車両を駐車させて欲しい。（近くの家の立替工事の期間）
☆　佐世保市から電話がありました。佐世保市に匿名の市民から、東翔坂に隣接する家の木が東翔坂にはみ出しており、それを避けるためにバスが反対車線に入ってくるため危ない、民家の家の木を切ってもらって欲しいと苦情の電話があったらしい。
☆　東翔の×町公舎のブロック塀に車をぶつけた人から県北振興局に電話があったそうです、その人の電話番号をお聞きしたので連絡をお願いしたい。
☆　東翔の××公舎を町内会の避難所として開放して欲しい（!?）と佐世保市に要望があったそうです。町内会の人から電話があるかもしれません。

みなさんの学校もこんな感じでしょうか?これがこのペースであと１０年続くとしたら…、それも、これらの案件ってあんまり生徒に直接関係ないよね…、などと考えながら。

今までは学校経営や地域との連携などについては、あまり考えたことはありませんでしたが、このような今までなかった経験を積みながら、少しずつでも自分が成長していけるといいなと考えています。そして、生徒のみなさんが安全で、充実した高校生活を送っていただくお手伝いができればと思います。

鶴南の子どもたちとともに

鶴南特別支援学校　**中村　宏平**

正門から見える軍艦島

平成３０年４月に、鶴南特別支援学校へ新任事務長として着任しました。

本校は、校門正門前の正面に世界遺産の「軍艦島」がくっきりと見える風光明媚な場所にあります。本校・分校２校・分教室を含めて、児童生徒数３３１名、職員数約２００名の大所帯で、県南地区の中心的な知的障害教育校として、先生方は保護者等のニーズに応えるべく子どもたちに寄り添い、キャリア教育などの進路指導やコーディネーターの役割による相談支援にも日々奮闘しています。

私自身の学校への勤務は、昭和６２年に口加高校へ学校事務職員として新規採用されて以来、実に２９年ぶり２度目となります。ブランクと呼ぶには余りにも長く学校勤務から離れていたため、「ボケている」を通り越してゼロからのスタートに近い状況でした。事務引継後、事務室の皆さんのサポートに支えられながら、年度当初から慌ただしい日常が始まりましたが、同時に何か新鮮なすがすがしい気持ちになりました。これまでの環境と違って身近に子どもたちの元気な声や姿があり、これが本来の学校事務だなと感じながら、学校の良さを実感する日々を過ごしています。

新学期が始まり、入学式には本校・分校・分教室を含めて４回出席の機会がありました。本校での入学式では慣れない環境のためか、情緒不安定な児童の姿も見られましたが、１学期の終業式ではしっかりと落ち着いた姿となり、子どもたちの成長を目の当たりにしました。これが一つの教育の成果だと実感しました。

高等部の生徒たちは卒業後の新たな社会的・職業的自立に向けて、現場実習や就労体験学習等を積み上げています。社会の荒波を乗り切る力を身に付けて、長所を伸ばし一回りも二回りも大きく成長してほしいと願うとともに、学校組織が一体となり、何を支援できるかを常に考えながら子どもたちを力強く後押ししたいと思っています。そのためには、マンパワーを活かした体制づくりが欠かせません。事務室においても「開かれた事務室」を合い言葉にして、教職員同士が相談しやすい環境を整え、お互いにカバーし合いながら「動くチーム鶴南」を目指したいと思っています。

米作り体験

大村城南高等学校　**森内　　潔**

大村城南高校へ赴任して、４年目となります。最初の２年間は事務室内で１番の若手でした。３年目になり、ようやく後輩が１人出来ました。そして今年度から事務長になりました。

本校の前身は「大村園芸高校（農業高校）」ですが、平成１０年度より校名を「大村城南高校」へ改め、総合学科の学校になりました。

総合学科はクラス毎に授業を受けるのではなく、生徒一人一人が授業を選択します。そのため、鍵付きの生徒用ロッカーがあります。毎朝、「ロッカーの鍵を忘れたので貸してください。」とバツの悪そうな顔をした生徒たちが事務室に訪れます。今まで勤務してきた学校と比べて生徒とふれ合う機会が多く持てる事を嬉しく思っています。（決して良い事ではないのですが…。）

本校には竹松農場（県立ろう学校の隣）に水田がありますが、田んぼアート（水田に色の違う稲を植えて出穂時にデザインが浮かび上がる。）を毎年９月半ば～９月末日までの土日祭日に一般公開しています。（よろしければ、是非一度ご来場ください。）

また、１年生全員が米作り体験を行っており、近隣の保育園の園児と年間１０回程度、「米作り体験学習会」を開催しています。水不足のため、稲の生育を心配した時期もありましたが、今年度も順調に生長しています。子供たちが裸足で田んぼに入り、「きゃっきゃっ」と声を上げながら楽しそうに田植えをする様子を見るのはなんとも良いものです。来年度以降も、このような取り組みを継続できることを切に願う今日この頃です。

平成３０年度　田んぼアート「ヴィヴィくん」

事務室の支え

長崎西高等学校　校長　渡川　正人

校長会における大きな課題のひとつは「働き方改革」で、現在私は管理運営委員会としてこのテーマに取り組んでいます。働き方改革関連法が今年６月に成立するとともに、長崎県議会でも、本会議および文教厚生委員会で話題となり、学校現場は業務縮減を一層加速させなければならない状況にあります。長崎県は他県以上に教員の熱意が高く、その献身的な指導の成果として、学習や部活動において大きな実績をあげていることを考えるとき、勤務の体制をどう変化させていくのか、勤務時間を削減しながらどう教育力を維持していくのか、難しい局面を迎えています。

先日の東京出張の際、山手線電車の車内に印象に残る動画の広告がありました。「平成も残りわずかなのに、働き方は昭和的」です。学校は企業とは違い、縮減できる業務は限られるかもしれませんが、前年通り、昔からやってきたからではなく、この仕事の趣旨や目的は何か、本当に必要なのか、もっと簡略化できないのか、廃止するとどんな影響があるのかなど、その必要性ややり方を根本的に考え直し、改善していく必要があります。一番易しいのは例年通りに行うこと、難しいのは「変える、減らす、やめる」であり、私たちはこのことに「勇気」を持って対処しなければなりません。

学校内の業務改善とともに、大きな見直しが必要なものは、学校外の業務削減です。教員は学校外に出る機会が非常に多くありますが、その中で様々な会（教育研究会２６部会、教務主任会、進研協、高体連、高文連など多数）のあり方を大きく見直す余地があるように思います。よく年度はじめに行われる、会務や決算の報告、会務や予算の計画などは、県内各地から多くの時間と旅費を費やして集まり、結局３０分程度の時間で終了します。なんと非効率的なことをしているのだろうと思います。これはメールのやりとりでできないか、総会・研究会のときに同時にできないか、役員の人数はそれだけ必要なのか、研究大会は隔年実施にできないのか、などの検討が可能であると考えます。

働き方改革は管理職、特に校長の在り方についても改善の必要があると考えています。昔お世話になった校長さんからのこんな言葉が印象に残っています。「校長室はなぜ広くないといけないか知っとるね。もちろん来客対応の応接テーブルも必要だし、優勝旗を置くスペースもいる。でも校長が学校運営を考えるとき部屋が広くないといい発想が浮かばんとさ。」昨今の多忙さの中で、学校をさらによくするため、落ち着いて思いを巡らす時間の確保の難しさを感じる日々です。また職員とじっくり話しをしたり、授業や部活動、学校行事等での生徒の様子を自分の目で見ることにももっと多くの時間を使いたいものです。

最後に、これも同じ校長さんからお聞きした話しです。「教頭さんと、事務長さんのどちらか一方だけ力量の高い人をと言われたら、やはり事務長さんよね。教頭職は自分も通ってきた道なので、仕事内容の把握やアドバイスもできる。事務関係の仕事は事務長さんに頼りきりだもんね。」校長として事務室の業務を把握しておくべきですが、わからないことが多く、事務室のおかげで校長職は成り立っています。また教員とは異なる視点で意見をいただくこともありがたく、判断の際の大きな助けになっています。校長からは見えないところでの細かい配慮や対応も多くあるはずです。本県県立学校の高い教育力と進学、就職、資格取得、文化・スポーツ等における大きな成果は、生徒の頑張り、教員の熱心な指導の結果ですが、学校全体を支える事務長さん、事務室の職員の方のおかげでもあることを決して忘れてはいけないと思っています。

編集後記

今夏の異常な暑さには本当に参りました。「今日も暑いですね」が毎日の挨拶になり、日中は外にいるだけでクラクラとして倒れそうでした。

自然の猛威はそれだけでなく、6月の大阪府北部地震、7月の西日本の豪雨、9月の台風21号、北海道胆振東部地震と続き、各地で大きな被害が出ました。これらに関連して、ブロック塀の改修や教室へのクーラー設置等、学校に関係ある事柄も話題になりました。

全国各地でこれだけ続くと、本県でもこのような自然災害がいつ起こってもおかしくない状況にあると考えていなければなりません。自宅・学校で落ち着いて適切な対応ができるよう、もう一度真剣に考え、備えていきたいと思います。

今回、渡川校長先生をはじめ、中町副会長、今年度で御勇退される方々、そして新会員の方々に執筆をお願いしましたところ、快くお引き受けいただきまして心より感謝申し上げます。

「ばってん」がより良いものとなるよう、今後も引き続き皆様のご協力とご指導をよろしくお願いします。

（K・H）